

中学生連載企画  
私たちのふるさと松山学 No.26

三輪田米山って  
どんな人？



久米中学校

努力の積み重ねから生まれた書  
久米地区に多くの書を遺した書家

三輪田米山

私たちは、久米に生まれ、その雄大で力強い書が評判を呼び、久米地区に数多くの書を遺した書家・三輪田米山について調べました。



小谷 虎生さん  
(取材当時1年)

もいえる自由な造形と力強い書が評判を呼び、全国でも高い評価を受け、人々に書の達人として知れ渡るようになりました。

1821(文政4)年、久米の日尾八幡神社の神職の家に長男として生まれ、神社を継ぎ、神主を務めた人物です。勤勉であった米山は、神職の仕事しながら書を研究し、その型破りと



いところで、自分のことより人のことを優先する心優しい人物でした。

今も残る米山の書



増本 優羽さん  
(取材当時1年)

米山の書いたものは、久米地区の神社や道路沿いなど至るところにあり、亡くなるまでに一万点以上の作品を仕上げたと言われています。

米山は本場である中国の有名な書を読んで勉強し、一生懸命書の練習をしまし



た。米山の字は一見拙く見えることもありますが、大変な努力の結果たどり着いた一つの境地であり、どれも勢いがあって力強く書かれ、独特ですが温かみを感じます。米山は自分の字を多くの人に見てもらい、さまざまなことを感じてもらいたかったのだと思います。

日尾八幡神社



有間 愛唯さん  
(取材当時1年)

私は神社が好きで、地元にある日尾八幡神社も、

友達と遊んだ思い出の場所です。そんな日尾八幡神社の正面入り口には、鳥居に向かつて右側に「鳥舞」、左側に「魚躍」と書かれた注連石(注連縄を張るための石柱)があります。これはこの神社の神主であり、書家でもあった米山が書いた有名な石碑の一つです。

また日尾八幡神社の「伊豫豆比売命」と石井にある椿神社の「伊豫豆比古命」は、伊予の神様



佐藤 来夢さん作 (取材当時2年)

温かく人に優しい久米の人柄を受け継いでいきたい

米山さんのように心優しい人が久米地区には多いと思います。他人に流されずひたむきに努力する姿や、温かく優しい人柄を私たちも受け継いでいきたいです。



(後列左から) 相原 莉里さん、曾根くるみさん、佐藤 来夢さん  
(前列左から) 増本 優羽さん、有間 愛唯さん、小谷 虎生さん

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることが出来ます。



第Ⅱ巻に三輪田米山を収録  
(3月12日に新編第Ⅳ巻を発行)

先人と文化の読み物教材  
「語り継ぎたいふるさと松山百話」  
I・II・III・IV